

2017年度

小論文B

(問題)

< H29119281 >

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～3ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄に、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. 受験番号および氏名は、試験が開始されてから、解答用紙の所定欄に正確に丁寧に記入すること（左記記入例参照）。所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。なお、解答用紙が複数枚ある場合には、それぞれの所定欄に記入すること。
5. 受験番号の記入にあたっては、左記（数字見本）にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。読みづらい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

(記入例)
58001

万	千	百	十	一
5	8	0	0	1

(数字見本)

0	1	2	3	4
5	6	7	8	9

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも解答用紙は必ず提出すること。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

小論文作成上の注意

1. 句読点、記号等、および改行のために生じる余白もすべて字数に含む。また、解答用紙の字数を超えて解答してはいけない。（句読点、記号等は、必ず独立した一マスを使用する。）
2. 本文中に自分の氏名を書かないこと。
3. 下書きは、別に配付の下書き用紙を使用すること。試験終了後、下書き用紙は持ち帰ること。

次の文章を読んで、二つの設問に答えなさい。

少子化をテーマとした調査研究のなかに、次のような一例があつて興味を惹かれた。すなわち、巷間に言挙げされる経済的理由やライフ・ワークのアンバランスなどに加えて、「子どもを持つという規範の崩壊」が一つの項目に掲げられていたのである。無作為抽出の結果でもあろうか、回答者の一人に加えられていた私は、その項目にも○を付けた。送付されてきた結果によれば、一因としてそれを挙げた人は、五年前の調査に比して倍増していることである。

かつて、「成人する」とは、選挙権を行使して政治に参加し、仕事に就いて経済的基盤を確立すること、それに加えて、結婚して家庭を形成し、子育ての責任をもつて子どもを一人前に成長させることであつた。それらは、近代家族が形成されて以降、「親」と呼ばれる人々に近代社会が付与した無形の義務責任であつたから、一度子どもを持つた人たちは、子どもが学校教育を終了しても、あるいは経済的に自立したとしても、なお、親としての責任から免除されることがなく、彼らを結婚させることで漸く子育てが完了したと納得し、また、周囲の人々からもそれを容認されたのであつた。

選挙で一票を投じることが政治を作り出す営みであれば、就職は生産活動に参加するという意味で広義の「ものづくり」であり、さらに、結婚に始まる家庭を形成し子どもを儲けてそれを育て上げることは、生殖行為によつて次世代を産み出す行為ということもできよう。とすれば、成人するとは、生涯のうちの「生産活動を中心とする時期」に身を投じて、その責任を引き受けるということであつた。家制度を解体させた近代社会が、家の代わりに個人のために用意した「成人の資格」は、男子成人のためという偏りを抱えてはいたが、それは、おおよそ、このようなものであつたのである。

最近目立ち始めた「子ども拔きの生涯設計」は、職場における生産活動に従事してその責任を果たすとしても、「生殖行為」という生産活動は忌避して、それと無縁に生きようと欲する人たちの企てである。彼らは、次世代の人間を作り出すという営みを忌避して、今一つの生産活動だけに全力投球を試みているのである。このことを捉えて、「子どもを持つこと」が結婚の目的であるとする従来の規範の崩壊であると指摘されることがあるが、その指摘はあながち不当とは言ひ難いだろう。「少子化」の一因に「規範の崩壊」をおく先の調査結果は、少なくとも全くの「的はずれ」ではないということだ。

成人になるということは、単に、個々人の成熟要因にのみ起因するものではない。言い古されたことながら、人類学や民俗学の知見が指し示すように、かつては、部族毎に男女それぞれに定められた通過儀礼があり、その関門を通過することが成人に至るとりあえずの一步とされていた。たとえば、極北の寒冷地ではそれらに耐え得る資質を、海をなりわいとする者たちは単独で定められた魚介類を捕獲する技など、それぞれ各人の生まれ落ちた地理的・歴史的環境のなかでの必須課題を達成することで、一人前の資格

が与えられたのである。それと今一つ、成人の条件として位置づけられたのは、男女それぞれに課された「生殖」という営みを果たし得るか否かということであった。これらが、共同体の一員として、その要請に応え得る基本的能力とされていたということになるのか。したがって、共同体の変貌あるいは崩壊と、成長の場として与えられた環境の変化に伴い、これら成人のための資格と条件が変化していくことは当然と云うべきであろう。

いま、「子ども」が「成人」になるための条件のなかに、ためらいもなく「産み育てる」ことを位置づけるには困難な環境が訪れている。子どもたちが成人して参加していく環境が、余りにも急激な変化のゆえに、その行方が見えにくいし、彼らの将来が判然とは捉え難くなったからであり、そのゆえに、「子ども」の存在意義が曖昧化し続けているからである。にもかかわらず、「少子化」の責任が、しばしば、若い男女が「産み育てる」営みを放棄しようとすることに向けられることがあり、とりわけ、若い女性にその責を帰されることがあるが、それは、余りにも、歴史的・環境的变化を無視したものであり、その蒙を咎められてしかるべきであろう。「子ども」の存在意義が稀薄化し続ける今日、「産み育てる」営みは、若い男女に義務として押し付けられようはずもなく、また、彼らが、唯々として引き受けられるものでもなくなりつつあるように見える。つまり、誰のために、何をさせようとして、「子ども」を産まねばならないのか、その目的が見えてこないのである。

(本田和子『子どもが忌避される時代』新曜社)

【設問】

(一) 筆者は、現代日本の少子化の責任を、若い男女の「産み育てる」営みの放棄に向けることが、なぜ歴史的・環境的变化を無視したものだと考えているのか。筆者の論に即して、その理由を二百字以上、二百五十字以内で述べなさい。

(二) 少子化が進む現代の日本社会で、子どもを「産み育てる」営みにどのような意義を付与することができるだろうか。あなたの見解を、「生産活動」「共同体」「規範の崩壊」という用語を用いて、四百五十字以上、五百字以内で述べなさい。

【以下余白】

受験 番号	万	千	百	十	一
カナ氏名					
氏名					

(二) 小論文解答用紙は汚したり、折りまげたり、破つたりしないこと。

(三) 字数を厳守すること。

[illegible][illegible]

200

(ここより左側には何も書かないこと)

(ここより左側には何も書かないこと)